



Vol.17

ゆうことみゆきのふくふくトーク
ソノコ de ソノコ
 アイヌ文化にどっぷり浸って生きてきた
 本田優子(札幌大学副学長)と
 村木美幸(アイヌ民族博物館専務理事)が、
 その魅力をソノコ(=お便り)形式で
 語り合います。
 イラスト/安田千夏

レブンカムイ(沖の神)



アイヌの人たちは、自然界の様々な動植物をカムイ(神)として崇めてきたよね。そのうち、森で最も位が高いのはキムンカムイ(山の神)と呼ばれるクマ神様。じゃ、沖(海)で最も位が高いのは?——クジラ、という答えが返ってくる人が多いけど、実はシャチ。レブンカムイ(沖の神)って呼ばれます。レブンは礼文島の礼文と同じで、沖に

いる(ある)という意味。
江戸時代、アイヌの人びとがクジラをカムイと考えていたという記録もあるにはあるけど、おそらくナンバーワンの座はシャチ。どうして巨大なクジラよりシャチかって? アイヌ社会では、捕鯨をしていた地域はそれほど多くなかったとされ、鯨肉のほとんどは、寄リク

ジラ。つまり寄リ上がったクジラの肉で、多くの場合シャチに襲われたクジラが海岸に打ち上げられたもの。だから、シャチは巨大なタンパク質の塊を人間にプレゼントしてくれる偉い神さまなんですよ。
集団で素晴らしい狩りをするので知られるシャチはまさに「海のハンター」。狩猟を生業としてきたアイヌの男たちにとっては憧れの存在だったのね、きっと。
物語にも、シマフクロウ神の奥さんであるクモの女神(なんて素敵なお姉さん!)に惚れられたシャチ神が彼女をこっぴどく振って追い返したり、逆に人文神アイヌラックルの妹に恋い焦がれる若きシャチ神が登場したり…。人間の女の子を妻にしたシャチ神から毎年クジラが届けられるようになったというお話もあるよね。
美幸さん、美男のシャチ神はお好み?



美男(イケメン)は、大歓迎ですよ!

シャチは、体も引き締まっています。筋骨隆々というイメージがあるので、強くて力のある神様というのうなずけるよね。
余市水産博物館にアイヌの海漁に関する資料で「カムイ

レブンカムイ(シャチ神)からのおくりもの



シャチの特徴といえば何といっても大きすぎる背ビレ。体長の三分の一位の高さになるものも珍しくないのだから。シャチの背びれはアシベと呼ばれ、シャチ神を尊ぶ家系に代々伝わるイトクパ(祖印)に多く彫り込まれたとのこと。イトクパはイナウやキケウシバスイ(酒樽箸)、ヘベライ(花矢)等の大切な祭具に彫られる特別な印。博物館で「アシベ」を探してみるのもきっと楽しいよね。

ギリ」と呼ばれるシャチを象った木板があった、クジラやサメ、アザラシ、マグロ、サケやニシン等を象った板とイナウキケ(削り掛け)が下がっているの。「カムイギリ」を祭壇に飾って、シャチ神がもたらす海の幸の豊漁を祈る際に使った祭具なのだそう。
偉いシャチ神ですが、クマ神のイオマンテのように盛大な送り儀礼はしなかったんだって。沢山の恵みを与えてくれるのに不思議だよ。でも、クジラの送り儀礼の際にはシャチ神のイナウ(木幣)も立てられ、御神酒とともに唱えられる祈詞にはクジラを授けてくれたことへの感謝の言葉が滔々と織り込まれたとのこと。
シャチの特徴といえど何といっても大きすぎる背ビレ。体長の三分の一位の高さになるものも珍しくないのだから。シャチの背びれはアシベと呼ばれ、シャチ神を尊ぶ家系に代々伝わるイトクパ(祖印)に多く彫り込まれたとのこと。イトクパはイナウやキケウシバスイ(酒樽箸)、ヘベライ(花矢)等の大切な祭具に彫られる特別な印。博物館で「アシベ」を探してみるのもきっと楽しいよね。

■本田優子(ほんだゆうこ):金沢市生まれ。札幌大学副学長。北大卒業後11年間平取町二風谷に住み、アイヌ語講師を務める。
■村木美幸(むらきみゆき):白老町生まれ。アイヌ民族博物館専務理事。先住民族アイヌの一員として文化継承活動に努める。
■安田千夏(やすだちか):神戸市生まれ。元アイヌ民族博物館学芸員。現在は同館でアイヌ若手育成事業の自然講座講師を務める。